

あおもり創造学を取り組んできた先輩が、インタビューを受け、陸奥新報に掲載されました。

## 地域の可能性を探究



### 身近な農業に目を向け

1年時のあおもり創造学「Sakura Time」で村元さんは、ICT発達による未来社会への悪影響をテーマに据えた。スマートフォンが生活に不可欠となってきた社会において、使い過ぎによる弊害などを探究したが、当時は自身を使った実験など主観的な調査が中心だった。2年生になり、岩木地区出身の自分に身近な農業へ目を向け「スマート農業の普及で後継者不足は解消されるか」を探究。客観的なデータを得るため近所の農家へ聞き取りする中で、「通学路の景色の一部」に過ぎなかった人々が抱える苦悩が見えてきた。祖父

### スマート機器開発が夢に

母のリンゴ畑を手伝う際に「後継ぎがいないう」などの切実な声を聞いていたこともあり「少しでも助けになりたい」と思いを深めた。調査の結果、初期費用や維持費の課題などから一周回では普及しておらず、打開策ではあるが有効策になっていない」と結論。将来は農業用スマート機器の開発を夢見ており、探究を経て「生活が苦しい人を最先端技術で救いたい」と目標が具体的にいった。

「小・中学校での経験を大切にして、日々のニュースに触れてほしい」と村元さん。地域に目を向けるきっかけとなった自身の歩みを基に、日ごろのさまざまな経験を学びの糧にするよう後輩へエールを送る。(田中康貴)

弘前中央高校2年  
村元 御月さん

### あおもり創造学

地域資源を生かし、青森の課題や可能性を探究する「あおもり創造学」。高校での学びは教室を飛び出し、新たな未来を切り開く起点となっている。探究活動を通じて、自分の進むべき道や故郷の魅力を再発見した先輩たちの等身大のメッセージを紹介する。

陸奥新報 2026年3月13日(金) 掲載

この画像は、当該ページに限りて陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。